

定年起業^⑧

社内での独立 支援制度で

会社設立の足がかり

勤めている会社に独立支援のようない制度があるなら、これを利用して「定年起業」の足がかりをつくる事ができる。富士ゼロックスに勤務していた鈴木和男さん(57)は、50代半ばから定年後のことを考え始めていた。異業種交流会では、「独立したい気持ちは以前からありましたが、仕事は面白いし、待遇もよかったです。なかなか踏み出せませんでした」

そんな折、会社が50代を対象にした独立支援制度をスタートさせた。①1年間の休職②月給分の1年間支給③退職金の5割増を条件に起業家を募集する社内制度だ。「何年か前から出入りしていた異業種交流会では中小企業オーナーの悩みを聞くことが多かった。大手のように自由に社内改革ができない会社を手助けする仕事をしたかったので、渡りに船でした」



起業の自信はあった……

中小企業オーナーの相談相手

もともと、富士ゼロックスでの仕事は顧客会社を回る一種のコンサルティング業務だったので、企業経営者のさまざまな悩みがよくわかっていました。たとえば、ISO(国際標準化機構)の認証取得などは大手では当たり前のことだが、資金力が弱い中小企業にとっては簡

役員は奥さんと娘さん

休職を機会にこれまで取引先との付き合い、異業種交流会での人脈をあらためて掘り起こし、まずは顧客開拓から始め

初の数年はタネまき。業向けの講演依頼も積極的に引き受けています。が、これも将来の顧客探しのために必要です。そんなこんなで4月に株式会社を設立しました。休職からわずか半年、KAZCONサルティン「KANZONサルティン」をスピード設立した。まだ起業としては始まった。資本金の120万円はすべて自己資金だ。役員は奥さんと娘さん。今年6月には富士ゼロックスを退職し、退職金の一部

おひなの情報